（２２）　えだまめ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 茎疫病 *Phytophthora sojae*	1.連作を避ける。 2.圃場の排水を良好にする。 3.罹病植物残さは圃場外に持ち出し、処分する。	発生前から	40	レーバスフロアブル
2 紫斑病 *Cercospora kikuchii*	1.無病種子を用いる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ゲッター水和剤は茨汚損症にも登録がある。	播種前（塗沫）	M3	キヒゲンＲ－２フロアブル
		発病前	1	ベンレート水和剤
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			M1	クミガードＳＣ
			10･1	（混）ゲッター水和剤
			10･1	（混）ニマイバー水和剤
3 葉焼病 *Xanthomonas axonopodis* pv. *glycines*	1.健全株から採取した種子を用いる。 2.連作を避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.バリダシン液剤５は、トマト、きく（秀芳の力など）には薬害を生じるおそれがあるので注意する。	発病前	U18	バリダシン液剤５
4 菌核病	1.多発圃場では収穫後湛水をして、土壌中の菌核を死滅させる。 2.連作を避ける。 3.被害株は除去し、処分する。	発病初期	11	ファンタジスタ顆粒水和剤
5 斑点細菌病 *Pseudomonas savastanoi* pv. *glycinea*	1.健全株から採取した種子を用いる。 2.連作を避ける。 3.排水をよくして株間湿度を下げる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.野菜類の斑点細菌病でＺボルドーの登録がある。			
6 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.プレオフロアブルはハモグリバエ類にも登録がある。	若齢幼虫期	3A	トレボン乳剤
			3A	トレボンＥＷ
			3A	トレボン粉剤ＤＬ
			6	アファーム乳剤
			15	アタブロン乳剤
			15	ノーモルト乳剤
			22A	トルネードエースＤＦ
			22A	ファイントリムＤＦ
			22B	アクセルフロアブル
			28	ヨーバルフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	フェニックスフロアブル
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ベネビアＯＤ
			30	ブロフレアＳＣ
			UN	プレオフロアブル
7 シロイチモジマダラメイガ	1.多肥栽培、密植栽培を避ける。	若莢期～子実肥大初期	3A	トレボン乳剤
8 オオタバコガ	1.幼虫を見つけたら取り除く	発生初期	30	グレーシア乳剤
9 マメシンクイガ	1.連作を避ける。	発生初期	28	ヨーバルフロアブル
			28	ベネビアＯＤ
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアＳＣ

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

えだまめ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
10 カメムシ類	1. 水田との輪作を行い、密度の低下を図る。 2. 圃場内や周辺の雑草を防除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. スミチオン乳剤はマメシンクイガ、ダイズサヤタマバエにも登録がある。 2. アグロスリン乳剤はフタスジヒメハムシにも登録がある。 3. トレボン乳剤、トレボン粉剤ＤＬはフタスジヒメハムシ、ダイズサヤタマバエにも登録がある。	着莢初期 ～子実肥大初期	1B 3A 3A 3A 3A 4A 4A 4A 4C	スミチオン乳剤 アグロスリン乳剤 トレボン乳剤 トレボンＥＷ トレボン粉剤ＤＬ ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 エクシードフロアブル
11 アブラムシ類	1. 周辺雑草を防除する。 2. 圃場周辺にシルバーテープをはる。 3. シルバーマルチをする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. モスピラン顆粒水溶剤は、コナジラミ類にも登録がある。	播種時	4A 4A	アドマイヤー１粒剤 ダントツ粒剤
		定植時	4A	アドマイヤー１粒剤
		発生初期	1B 4A 4A 4A 4A	マラソン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤
12 フタスジヒメハムシ	1. 連作を避ける。 2. 越冬場所となる圃場周辺の落葉を除去する。	播種時	4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発生初期	3A 30 30	アディオン乳剤 ブロフレアＳＣ グレーシア乳剤
13 コガネムシ類	1. 幼虫の生息密度の高い圃場を秋耕する。 2. 連作圃場では発生に注意する。 3. 生わら等未成熟堆肥等の多用を避ける。	成虫多飛来期 (７月中旬 ～８月上旬)	28	ヨーバルフロアブル
14 ハダニ類	1. 圃場内や周辺の雑草は作付前に防除する。 2. 収穫残さは、速やかに処分する。	発生初期	10A 13 21A	ニッソラン水和剤 コテツフロアブル ダニトロンフロアブル
15 ハモグリバエ類	1. 被害植物や雑草は除去後に土中に埋設するか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 2. 周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。	発生初期	30	グレーシア乳剤
16 ダイズサヤタマバエ	1. 過度の密植は避ける。	発生初期	4A	スタークル液剤１０
17 タネバエ	1. 有機物の多用を避ける。 2. 早まきを避ける。 3. 排水を良好にする。	播種前 （塗沫）	－	キヒゲンＲ－２フロアブル
18 ネキリムシ類	1. 圃場内や周辺雑草を除去する。 2. 株に被害があったときは、株元の土を浅く掘り起こして幼虫を捕殺する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. カルホスは使用回数に注意する。	播種時	1B 1B	カルホス微粒剤Ｆ カルホス粉剤
		定植時	1B 1B	カルホス微粒剤Ｆ カルホス粉剤
		播種時～ 本葉２葉期	1B	カルホス粉剤
		発生初期	1B 1B 3A 22B	ネキリエースＫ カルモック ガードベイトＡ アクセルベイト

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する